

事業名	サイエンスマスター（仮称）教員養成・支援手法開発
主管課及び関係課（課長名）	（主管課）科学技術・学術政策局 基盤政策課 （課長：倉持隆雄）
上位施策目標	<p>施策目標 6 - 3 国民の科学技術に対する理解の増進及び信頼の獲得</p> <p>達成目標 6 - 3 - (追加) 高い指導技術を持つ教員の指導技術の収集・蓄積とその評価尺度の検討を行うため、これらの教員が指導法の開発を更に行う機会を創出する。収集・蓄積した指導技術を社会に還元するとともに、良好な成果を挙げた教員については表彰することにより、理科・数学教員の社会的地位向上につなげる。</p>
事業の概要	<p>各都道府県・政令市教育委員会は、理科・数学（算数）教員（以下、教員と総称する）のうち熟練した者についてこれまでの教育実践の報告に基づいた選考を行い、サイエンスマスター候補者とする教員を文部科学省に推薦する。人数は小・中・高（中等教育学校を含む）各教員それぞれ2名が推薦されることを目指す。推薦の際には、これまでの教育実践についてまとめた資料と経費の支援（一年度あたり50万円）があれば当該教員が取り組みたいと考えている16・17年度の指導の改善案をあわせて文部科学省に提出する。</p> <p>文部科学省において、推薦された者のこれまでの教育実践における指導、理科・数学（算数）についての生徒の関心についての動機付けのあり方、実験・観察の取り入れられ方等について、専門家等を交えた会議体を組織して審査し、小・中・高各10名の最優秀者を決定し、サイエンスマスター候補者として、指導改善案を実施する際に必要な物品やサービスについて2年間文部科学省の委託先からの支援を行う。</p> <p>2年間の取組を通じて、教員の指導技術の測定についての指標開発を行いつつ、最終的に非常に優れた実践を行ない、高い指導技術を持つと審査委員会で認められた者については文部科学大臣よりサイエンスマスター（仮称）として表彰する。このような形式で向上意欲を促すことによって将来的に教員の目標として機能するものを目指す（サイエンスマスターの決定時期を科学技術週間とリンクさせる等の盛り上げの工夫をする）。</p> <p>各都道府県教委から寄せられた教育実践報告及び指導改善案は取りまとめた上、我が国における理科・数学（算数）教育についての優秀な実践事例として蓄積、データベース化等を行い情報発信を行う。</p> <p>将来的に手法が確立した後は科学技術試験研究委託費ではなく、文部科学省が認定を実施し、JSTが支援する枠組の事業として長期的に教員の社会的地位の向上を図ることを目指す。</p>
予算額及び事業開始年度	平成16年度概算要求額：40百万円 事業開始年度：平成16年度
必要性	<p>青少年をはじめとした国民の科学リテラシーの向上を図る上で、児童生徒と直接に接する教員に高い資質が求められ、また、その指導技術の向上がなされることは非常に重要である。また、教員の平均年齢が高齢化し、経験豊富な教員の大量退職を目前に控える状況において、高い指導技術を持つ教員について、その技術を極力収集・蓄積し、かつ全国的に発信していくことは重要である。さらに、高い指導技術を持つ教員について、指導技術の評価尺度を開発しつつ、正当な評価を与えていくことにより、その社会的地位の向上と教員全体の意欲の刺激を図ることは強く求められている。</p>
効率性	<p>意欲の高い教員に比較的少額の研究費に相当する経費を支援する支出により、これを通じて教育現場における理科・数学（算数）の指導技術の収集・蓄積と、サイエンスマスターとして顕彰を行うことにより教員の意欲の向上を図ることが可能。さらに副次的な効果として教員の指導技術の評価尺度の確立も期待できる。かつ、事業の運営を民間企業等に委託することにより、効率的な事業運営が確保できる。</p>
有効性	<p>達成効果の把握の仕方（検証の手順）</p> <p>事業委託機関による分析を行いつつ、さらに有識者を交えた会議体を設置した上で、事業実施の方向性、評価尺度の開発、個々の教員に対する支援成果の実態調査、サイエンスマスターにするべき者の審査等を行うことにより、適切な評価を行いつつ事業の実施を図る。</p>
	<p>得ようとする効果の達成見込みの判断根拠（判断基準）</p> <p>平成14年度より実施してきたサイエンス・パートナーシップ・プログラム事業により各地域に意欲があり高い指導技術を持つ教員が理科教育研究会等のネットワークとともに存在していることが把握されており、適切な候補者の選出が可能。</p>

<p>公平性、優先性</p>	<p>教員の平均年齢の高齢化を踏まえると、高い指導技術を持つ教員の指導技術を更に改善・蓄積して社会に還元し、同時にこれを教員の社会的地位の向上につなげていくのは喫緊の課題である。</p>	
<p>得ようとする効果及び達成年度</p>	<p>高い指導技術を持つ教員の指導技術の収集・蓄積し、また、その評価尺度を確立し、収集・蓄積した指導技術は社会に還元する。また、高い指導技術を有する教員の意欲を刺激し、良好な成果を挙げた教員については表彰することで、理科・数学教員の社会的地位向上につなげることを目指す。</p>	<p>達成年度</p> <p>平成18年度までに実施方法確立、平成19年度に表彰・評価を実施、その後事業をJSTへ移管することを検討。</p>

サイエンスマスター (仮称) 育成・支援手法開発

目的 高い指導技術を持つ教員に一定期間の支援を与え、意欲を刺激し、指導法の開発を更に行う機会を創出
良好な成果を挙げた教員は「サイエンスマスター (仮称)」として表彰し、熟練した教員の社会的地位向上を図る
高い指導技術を持つ熟練した教員の指導法を広く社会に還元・継承

